

2020年12月期 第2四半期決算説明会

(第2四半期決算補足説明資料)

2020年11月20日
株式会社キッツ
代表取締役社長 堀田 康之

【注意事項】

本資料に記載されている当社及び連結子会社の計画、戦略及び業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。

目次

1 第2四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

1 第2四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

2020年12月期 第2四半期 業績

単位(百万円)

	2020年 3月期 2Q実績	2020年 12月期 2Q計画	2020年 12月期 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	62,199	55,300	55,799	▲6,400	▲10.3%	499	0.9%
内、バルブ事業	49,760	46,800	47,122	▲2,637	▲5.3%	322	0.7%
内、伸銅品事業	10,737	7,900	8,056	▲2,680	▲25.0%	156	2.0%
営業利益 (率)	2,816 (4.5%)	2,400 (4.3%)	2,728 (4.9%)	▲87	▲3.1%	328	13.7%
内、バルブ事業	4,524	4,600	4,830	306	6.8%	230	5.0%
内、伸銅品事業	72	▲230	▲182	▲255	-	47	-
経常利益	2,733	2,100	2,439	▲294	▲10.8%	339	16.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,033	1,300	1,676	▲357	▲17.6%	376	28.9%
ドル:対円	109.98	107.00	106.33				
ユーロ:対円	124.07	125.00	121.65				
電気銅建値:円/トン	692,000	700,000	674,000				

注) 売上高及び営業利益は、バルブ事業と伸銅品事業のみを表示しておりますが、合計はその他を含む連結合計であるため、一致していません。

バルブ事業 国内売上高(市場別)

前年同期比11億25百万円(3.6%)減の305億54百万円。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、建築設備向けは、市中在庫の積み上がりが継続し、販売量が減少。工業用バルブは、プラントの大型定修が一巡し、製造業の設備投資は低水準。水関連は、官公需が中心の上下水道向け及びフィルターが、好調を維持。半導体製造装置向けは、市況回復により第1四半期は好調であったが、第2四半期は若干踊り場となった。

単位(億円)

	2020年3月期 2Q	1Q	2Q	2020年12月期 2Q	対前年	
					増減額	増減率
国内 合計	317	156	150	306	▲11	▲4%
建築設備	133	62	60	121	▲12	▲9%
水関連	38	17	21	38	-	-%
半導体関連	28	18	16	34	6	21%
機械装置関連	36	17	16	33	▲3	▲8%
石油精製・石油化学	34	17	15	32	▲2	▲6%
一般化学	14	6	7	13	▲1	▲7%
食品・製紙	12	5	5	10	▲2	▲17%
ガス・電力	11	5	5	10	▲1	▲9%
大型プロジェクト物件	11	9	5	14	3	27%

注) 1 各市場で採用されるバルブの材質、形状の変化やトレンドを考慮し、2018年度より各市場に集計する製品群の一部を見直ししております。

注) 2 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 海外売上高(エリア別)

前年同期比15億12百万円(8.4%)減の165億67百万円。中国・韓国の半導体製造装置向けは、国内と同じく2Qは若干踊り場。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、全てのエリアで受注が大きく減少。米州・欧州は、Oil&Gas関連需要の低迷により、代理店の在庫削減の動きが継続し、大幅減収。南米MGAは減収ではあるが、健闘。アセアン・韓国他は、各国で経済活動の本格再開が見通せず、減収。中国は、新型コロナウイルス感染症収束後、市況が回復し、堅調を維持。

単位(億円)

	2020年3月期 2Q	1Q	2Q	2020年12月期 2Q	対前年	
					増減額	増減率
海外 合計	181	87	78	166	▲15	▲8%
アセアン・韓国他	68	35	30	65	▲3	▲4%
(内、半導体向け)	(6)	(8)	(5)	(13)	(7)	116%
中国	32	18	18	37	5	15%
(内、半導体向け)	(6)	(3)	(2)	(5)	(▲1)	▲16%
中東	4	2	1	3	▲1	▲25%
アジア計	104	56	48	104	-	-%
米州(北米、中南米)	53	21	21	42	▲11	▲21%
欧州・その他	24	10	9	19	▲5	▲21%

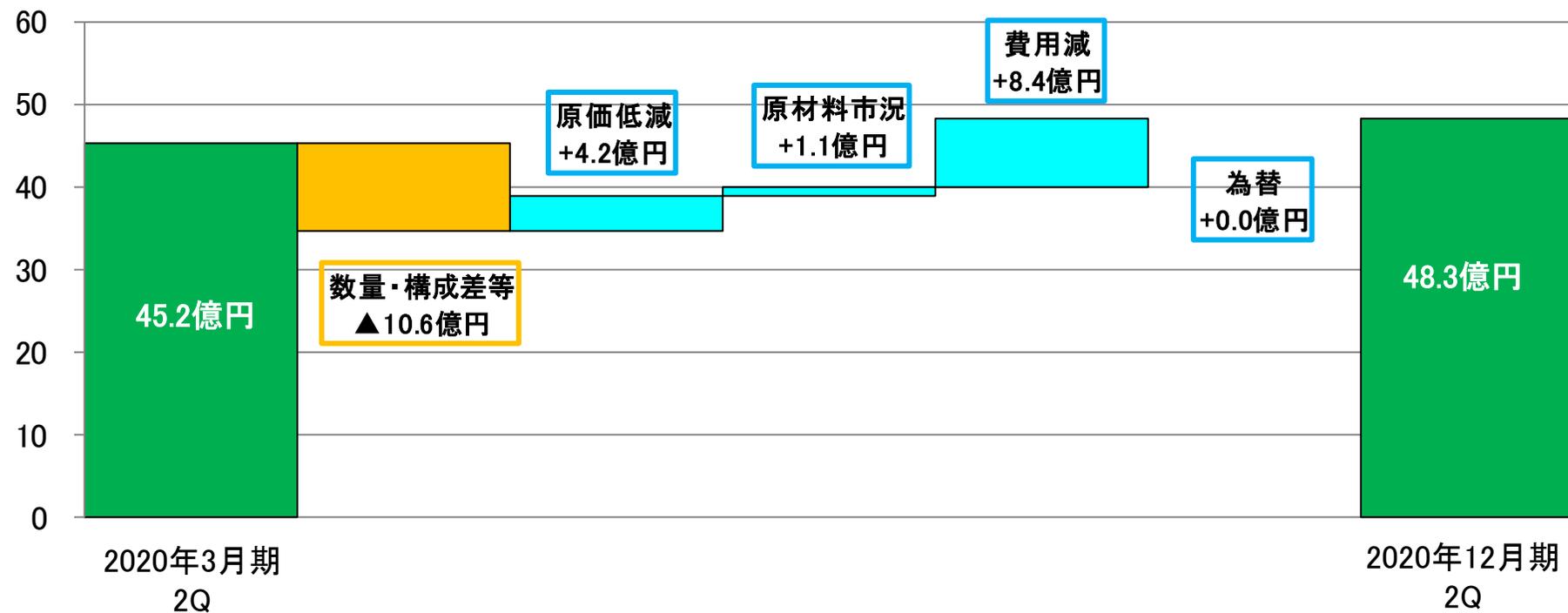
注) 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 営業利益増減要因

単位(百万円)

	2020年 3月期 2Q実績	2020年 12月期 2Q計画	2020年 12月期 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	49,760	46,800	47,122	▲2,637	▲5.3%	322	0.7%
営業利益	4,524	4,600	4,830	306	6.8%	230	5.0%

(億円)



伸銅品事業の概要

■売上高について

売価に影響を与える原材料相場は、4月を底に上昇傾向。新型コロナウイルス感染症拡大による需要減少により、生産量が大きく減少(前年同期比▲17%)。売上高は、前年同期比25.0%減の80億56百万円。

■営業利益について

販売量減少の影響が大きく、また生産調整(一時帰休)を行ったことから、1億82百万円の営業損失(前年同期は72百万円の営業利益)。

単位(百万円)

	2020年 3月期 2Q実績	2020年 12月期 2Q計画	2020年 12月期 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	10,737	7,900	8,056	▲2,680	▲25.0%	156	2.0%
営業利益	72	▲230	▲182	▲255	-	47	-
電気銅建値:円/トン	692,000	700,000	674,000				



黄銅棒とその加工品



キッツメタルワークス 新工場

その他の概要

■売上高について

ホテル事業で新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月から5月にホテルを臨時休業したことや、8月の花火大会中止及びサービスエリアの利用客減少等により、前年同期比63.6%減の6億19百万円。

■営業利益について

2億4百万円の営業損失(前年同期は91百万円の営業利益)。

単位(百万円)

	2020年 3月期 2Q実績	2020年 12月期 2Q計画	2020年 12月期 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	1,701	600	619	▲1,081	▲63.6%	19	3.3%
営業利益	91	▲260	▲204	▲296	-	55	-



長野県諏訪市のホテル紅や

連結営業外・特別損益の状況

単位(百万円)

	2020年3月期 2Q実績	2020年12月期 2Q実績	増減額	主な内訳(当期)
営業利益	2,816	2,728	▲87	
■営業外収益	359	427	68	Unimech配当金 28 助成金収入114(伸銅品事業、ホテル事業他)
■営業外費用	442	717	274	為替差損 164 社債発行費 67 伸銅品事業 デリバティブ評価損 143
経常利益	2,733	2,439	▲294	
■特別利益	340	183	▲157	投資有価証券売却益 前期 331 → 当期 164
■特別損失	81	124	42	ホテル紅や 臨時休業による損失 35
税金等調整前当期純利益	2,992	2,498	▲493	
法人税等	912	814	▲97	
当期純利益	2,079	1,683	▲396	
非支配株主に帰属する当期純利益	46	7	▲38	
親会社株主に帰属する当期純利益	2,033	1,676	▲357	

バランスシートの状況

減収による売上債権の減少等があったが、社債100億円の発行により、資産合計は48億62百万円増加。

- 流動資産:現金及び預金の増加 134億12百万円 売上債権の減少 36億19百万円 棚卸資産の減少 7億69百万円
- 固定資産:有形固定資産の減少 17億13百万円 無形固定資産の減少 10億57百万円
- 負債:支払手形及び買掛金の減少 22億44百万円 社債の増加 97億62百万円
- 有利子負債は、104億97百万円増加し、496億45百万円。(純有利子負債は29億14百万円減少し、175億36百万円)。
- 純資産は、配当金の支払、自己株式の取得、為替換算調整勘定の減少により、25億47百万円減少。

単位(百万円)

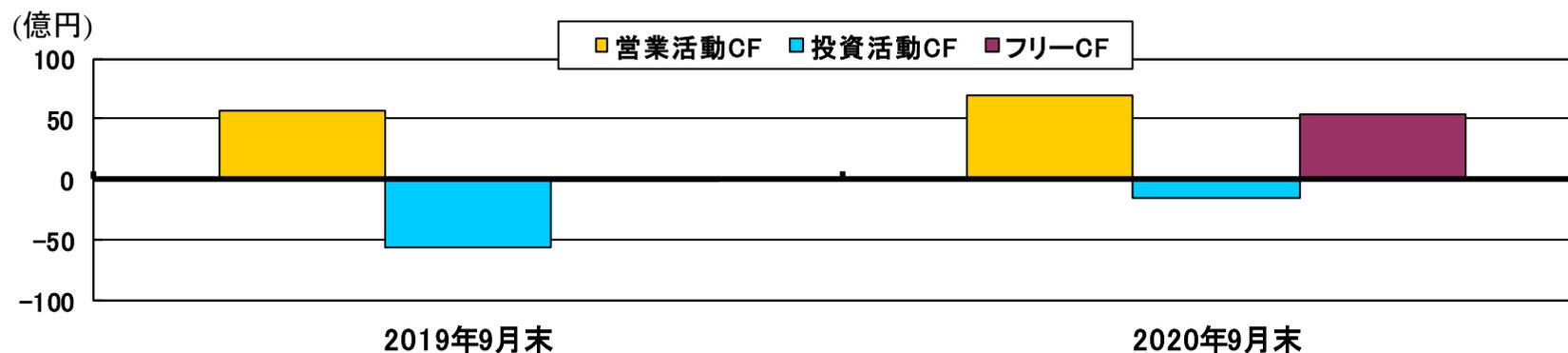
資産の部	2020年 3月末	2020年 9月末	増減額	負債の部	2020年 3月末	2020年 9月末	増減額
流動資産	73,351	80,624	7,272	流動負債	25,036	22,540	▲2,495
固定資産	61,712	59,301	▲2,410	固定負債	33,147	43,053	9,906
有形固定資産	44,241	42,527	▲1,713	負債合計	58,184	65,594	7,410
無形固定資産	7,639	6,582	▲1,057	純資産合計	76,879	74,331	▲2,547
投資等	9,831	10,191	360	負債・純資産 合計	135,063	139,925	4,862
資産合計	135,063	139,925	4,862				

キャッシュ・フローの状況

- 営業活動CF: 税金等調整前四半期純利益24億98百万円、減価償却費32億93百万円、売上債権の減少25億67百万円。仕入債務の減少16億67百万円はあったが、69億47百万円の資金の増加。
- 投資活動CF: 有形固定資産の取得による支出21億2百万円等により、15億71百万円の資金の減少。
- フリーCF: 前年同期▲44百万円から、53億75百万円と大幅に改善。
- 財務活動CF: 社債の発行による収入99億32百万円、長短期借入金の調達及び返済による純増額11億44百万円。配当金の支払9億27百万円、自己株式の取得による支出等はあったが、83億34百万円の資金の増加。

単位(百万円)

	2020年3月期 2Q実績	2020年12月期 2Q実績	増減額	増減率
営業活動CF	5,668	6,947	1,278	22.6%
投資活動CF	▲5,713	▲1,571	4,141	-
フリーCF	▲44	5,375	5,420	-
財務活動CF	▲2,446	8,334	10,780	-
現金等期末残高	10,193	31,755	21,561	211.5%



第2四半期の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2020年3月期 2Q実績	2020年12月期 2Q実績
売上高	62,199	55,799
営業利益	2,816	2,728
経常利益	2,733	2,439
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,033	1,676
海外売上高比率	29.5%	30.1%
有利子負債	34,794	49,645
自己資本比率	58.2%	52.5%
BPS	795.20円	819.75円
EPS	21.75円	18.46円

1 第2四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

2020年12月期 通期業績見通し

単位(百万円)

	2020年3月期 3Q累計実績	2020年12月期					対前年 増減率	<ご参考> 当初計画 (8/11発表)
		1Q 実績	2Q 実績	3Q	通期 (9ヵ月)			
売上高	94,083	28,745	27,053	26,701	82,500	▲12.3%	81,500	
営業利益 (率)	5,010 (5.3%)	1,580 (5.5%)	1,147 (4.2%)	571 (2.1%)	3,300 (4.0%)	▲34.1%	3,200	
経常利益 (率)	4,842 (5.1%)	1,363 (4.7%)	1,076 (4.0%)	560 (2.1%)	3,000 (3.6%)	▲38.0%	2,800	
親会社株主に帰属 する当期純利益 (率)	3,494 (3.7%)	839 (2.9%)	837 (4.2%)	323 (1.2%)	2,000 (2.4%)	▲42.8%	1,700	
ドル:対円	109.22				107.00			
ユーロ:対円	122.36				125.00			
電気銅建値:円 /トン	689,000				700,000			

セグメント別計画

単位(百万円)

売上高	2020年3月期 3Q 累計実績	2020年12月期計画					対前年 増減率	<ご参考> 当初計画 (8/11発表)
		1Q 実績	2Q 実績	3Q	通期 (9ヵ月)			
バルブ事業	75,792	24,322	22,800	21,677	68,800	▲9.2%	68,500	
伸銅品事業	15,912	4,266	3,790	4,543	12,600	▲20.8%	12,000	
その他	2,378	156	462	480	1,100	▲53.7%	1,000	
計	94,083	28,745	27,053	26,701	82,500	▲12.3%	81,500	

営業利益	2020年3月期 3Q 累計実績	2020年12月期計画					対前年 増減率	
		1Q 実績	2Q 実績	3Q	通期 (9ヵ月)			
バルブ事業	7,666	2,739	2,092	1,509	6,340	▲17.3%	6,450	
伸銅品事業	30	▲162	▲19	▲47	▲230	-	▲360	
その他	78	▲146	▲58	▲45	▲250	-	▲360	
調整額	▲2,764	▲849	▲865	▲844	▲2,560	-	▲2,530	
計	5,010	1,580	1,147	571	3,300	▲34.1%	3,200	

事業環境(バルブ事業／国内)

	市場環境	今後の見通し・施策
建築設備向け	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、代理店在庫が積み上がり、特に中小物件向けの需要が落ちている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代理店在庫の調整が進まず、当面は低水準が続く。 ・データセンター関連の受注に注力していく。
水市場向け	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道向けは、官公需中心であり、東京都向け等が堅調。 ・半導体関連等で使用されるフィルターも、好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道向け、フィルターとも、好調が継続する見通し。
工業向け	<ul style="list-style-type: none"> ・大型定修工事が、1Qで一巡。 ・新型コロナウイルスの影響により、製造業の設備投資は様子見。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受注残が減少しており、当面は低水準が続く。 ・一部製造業は、生産拠点の国内回帰の動きもあり、期待。
半導体向け	<ul style="list-style-type: none"> ・5G、IoT需要などで、半導体市場は成長が継続しているが、2Qは踊り場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1Qは装置メーカーの先行発注もあり好調。2Qは踊り場であったが、3Q以降はゆるやかな回復傾向が続く見通し。
水素関連	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー、脱炭素社会に向けた動きが全世界的に広がり、追い風。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水素ステーション事業は、入札案件は複数あり、初受注に向け注力していく。 ・水素ステーション向けバルブは、国内の多くのステーションで採用されている。

事業環境(バルブ事業／海外)

	市場環境	今後の見通し・施策
米州	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大及び原油価格低迷の影響が大きく、Oil&Gas関連投資は低水準が続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北米は、大手代理店からの受注が減少しているが、グローバル契約を締結し、来期以降に期待。 ・ブラジルMGAは、売上は減少したが、価格改定、シェアアップ等により比較的堅調。
欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大が続いており、各国とも厳しい状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用ボールバルブを扱うドイツPerrinは、前期並みの売上を確保。スペインKCEは、Oil&Gas需要大幅減により、営業赤字。
アセアン・韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアは、国別に差はあるが、経済活動の停滞が継続。 ・韓国半導体市場は、一部案件の延期はあるものの、好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも年内は低水準が続く。 ・東南アジアは、ビジネス目的の人の往来が始まるなど、欧米よりも早期に経済が動き出す可能性がある。 ・プラント向けが中心の韓国Cephasは、売上減で厳しい状況が続くが、キッツグループとして、全エリアでの拡販に注力。
中国・台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体市場は、好調。 ・データセンター関連需要は堅調。 ・新型コロナウイルスは収束し、2Q以降需要は回復。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データセンター向けを中心に拡販。

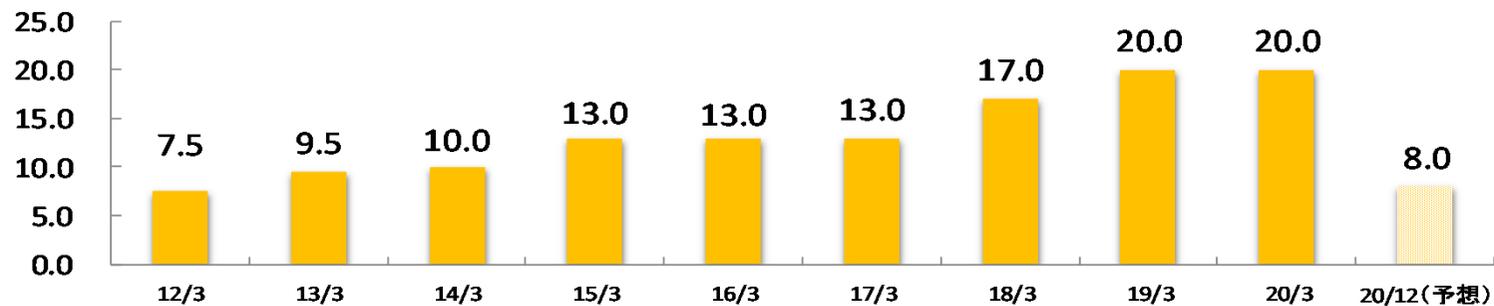
事業環境(伸銅品、その他)

	市場環境	今後の見通し・施策
伸銅品	<ul style="list-style-type: none"> ・銅相場は、新型コロナウイルスの影響で1Qに大きく下落した後、その後上昇が続く。 ・国内伸銅品需要は大きく減少(特に自動車向け)したが、8月で底打ちした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銅相場は足元の水準が続くと見込む。 ・受注は8月で底打ちし、9月以降は水栓金具向け等が回復。
その他 (ホテル紅や)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、宿泊客、サービスエリア利用客とも、低迷していたが、Go Toトラベルキャンペーンの効果がでてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元々、冬は閑散期であり、忘年会等も見送り傾向だが、県内の集客と経費削減に取り組む。 ・サービスエリアは、営業黒字化。

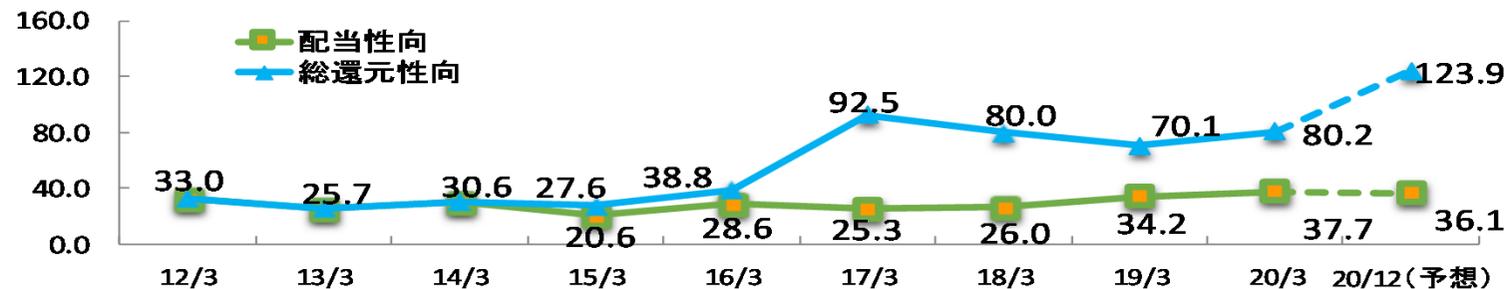
株主還元方針

配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準と考えている。2020年12月期は、1株当たり年間(9ヵ月)7円(第2四半期末4円、期末3円)を計画していたが、業績予想の修正に合わせ、1円を加算し、8円(第2四半期5円、期末3円)の配当予想とする。連結配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の36.1%、総還元性向は123.9%となる見込み。

<年間配当金推移>



<配当性向、総還元性向推移>



1 第2四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

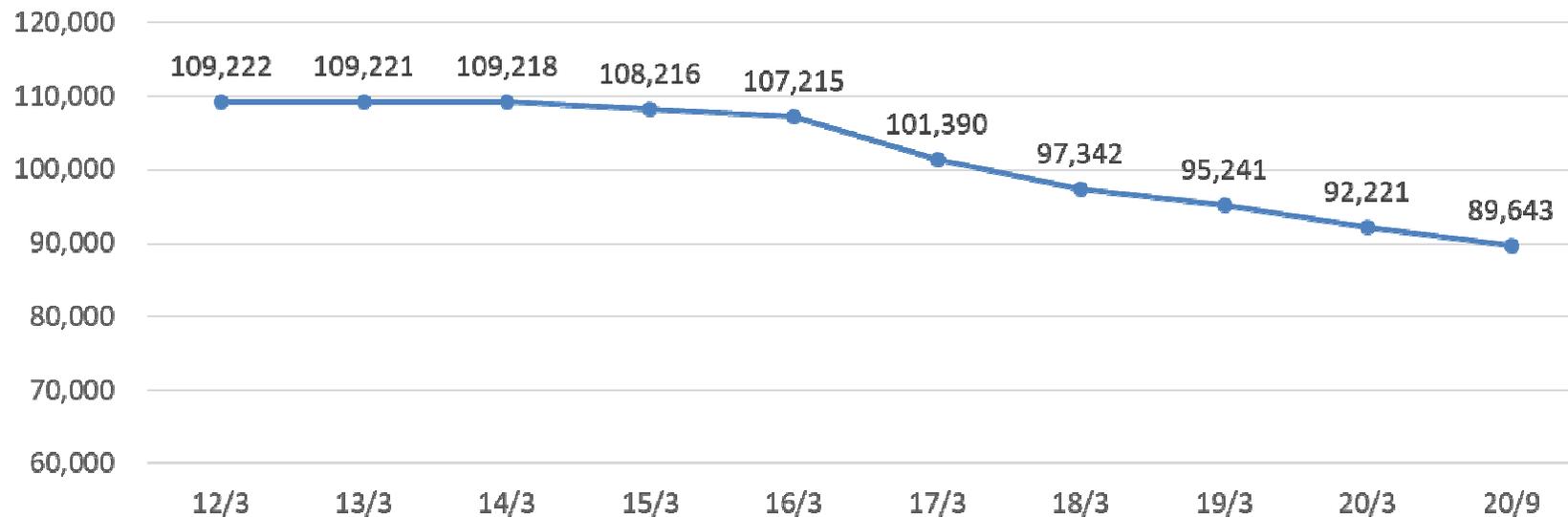
自己株式の消却

2020年10月16日開催の取締役会における決議内容

消却する株式の種類	普通株式
消却する株式の総数	10,000,000株
消却前の発行済株式の 総数に対する割合	9.96%
消却実施日	2020年10月23日

<期末発行済株式数推移(自己株式控除後)>

(千株)



液化水素用大型バルブの技術開発に関する NEDO助成事業に参画



2020年7月、キッツは、液化水素用大型バルブの技術開発に関するNEDO（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）助成事業に参画する企業の1社として採択された。

次世代エネルギーの筆頭である水素は、通常の状態では気体だが、効率良く運搬するために、マイナス253℃に冷やして液体にする必要があり、極低温の液化水素を大規模供給・利用する際の制御機器として、大口径の遮断弁と逆止弁の開発を担当する。今後は、商用化実証プラントに採用されることを目標に開発を進める。

清水合金製作所 豪雨災害被災地にアクアレスキューを設置



2020年7月、全国的に記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が発生した。清水合金製作所は、アクアレスキューを、集中豪雨で被害のあった長野県松本市の浄水場に設置し、給水活動を行った。

7月7日、松本市役所から当社にアクアレスキューを設置してほしいとの緊急要請の連絡があり、砂ろ過水の貯留水槽から取り入れた水をアクアレスキュー2台で膜ろ過し、建屋下の配水池へ供給する方法で対応することを決定。ホース配管、電気配線を接続し試運転調整を行った後、濁度、色度、pHに異常が無いことを確認し、給水を開始した。

アクアレスキューは、コンパクトかつ可搬式であるため、どのような場所にも設置することが可能。また、塩素消毒、逆洗機能など、取水から給水までに必要な全ての機能が備わっている。自然災害は今後も増加することが予想されるため、お客様からの要請に対し、迅速に対応できる体制を整える。



株式会社キッツメタルワークス 「アシストフックII」を開発・製造

2020年10月、株式会社キッツメタルワークス(以下、KMW)は、シリコン系鉛レス黄銅であるエコブラスを使った非接触グッズ「アシストフックII」を開発・製造することを決定。

新型コロナウイルス感染症感染拡大が続く中、ドアノブやつり革等に触れないようにするニーズから、各社が非接触グッズを発売している。そうした中、黄銅棒及び黄銅加工品の製造・販売を行うKMWで商品化できるものはないかと検討。日本で最初にフックを開発し、多くの販売実績をもつトップメーカーである、有限会社ギルドデザイン殿(以下、ギルドデザイン)の純銅製抗菌フック「アシストフック」に注目し、改良版を提案し開発を進め、採用が決定した。

フックの機能に加え、エレベータボタンやATM等のタッチパネル操作ができるよう、先端に「特殊なタッチゴム機能」を搭載し、材料は純銅製に比べ変色しにくい、シリコン系鉛レス黄銅の「エコブラス®」材を採用している。



KITZ

ご清聴ありがとうございました。

1 2020年12月期 第2四半期決算

2 2020年12月期 通期業績見通し

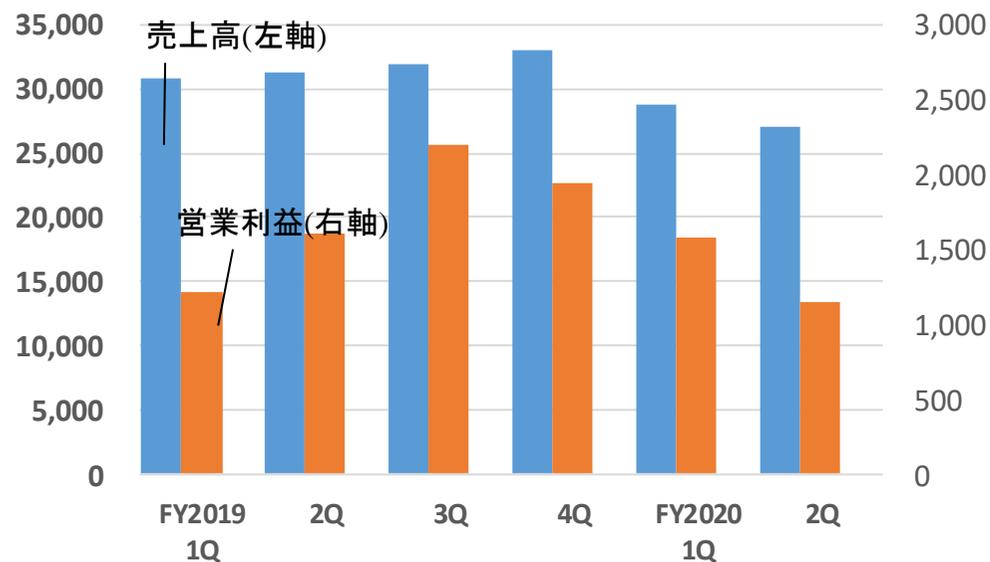
3 最近のトピックス

-補足データ-

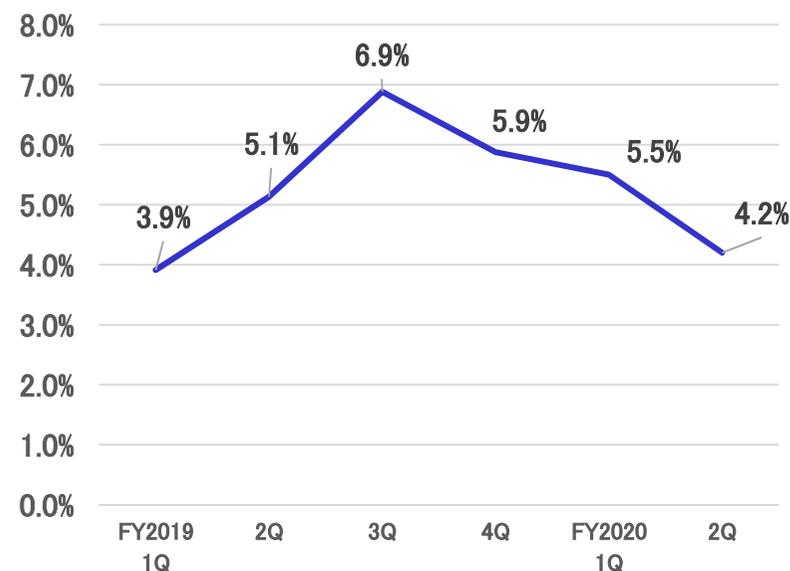
四半期業績推移(連結)

(百万円)

売上高/営業利益



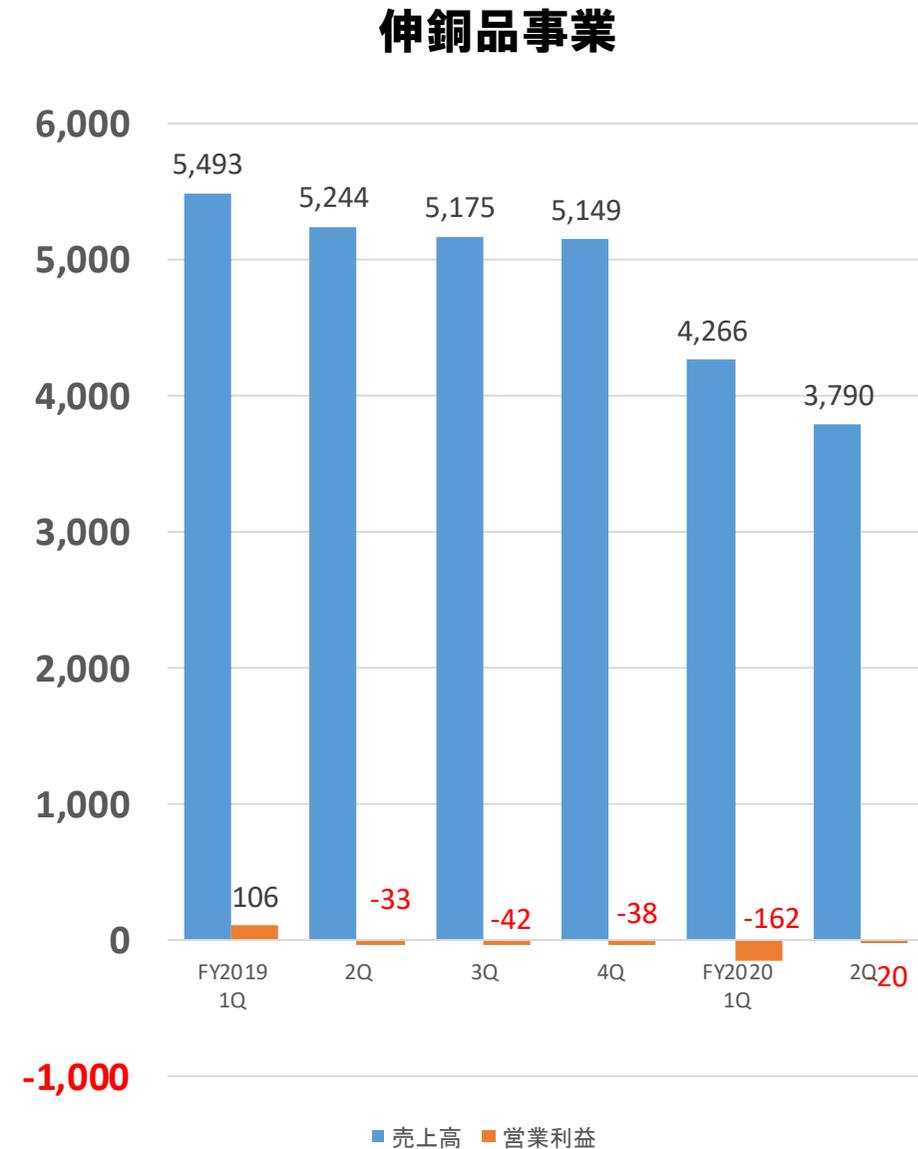
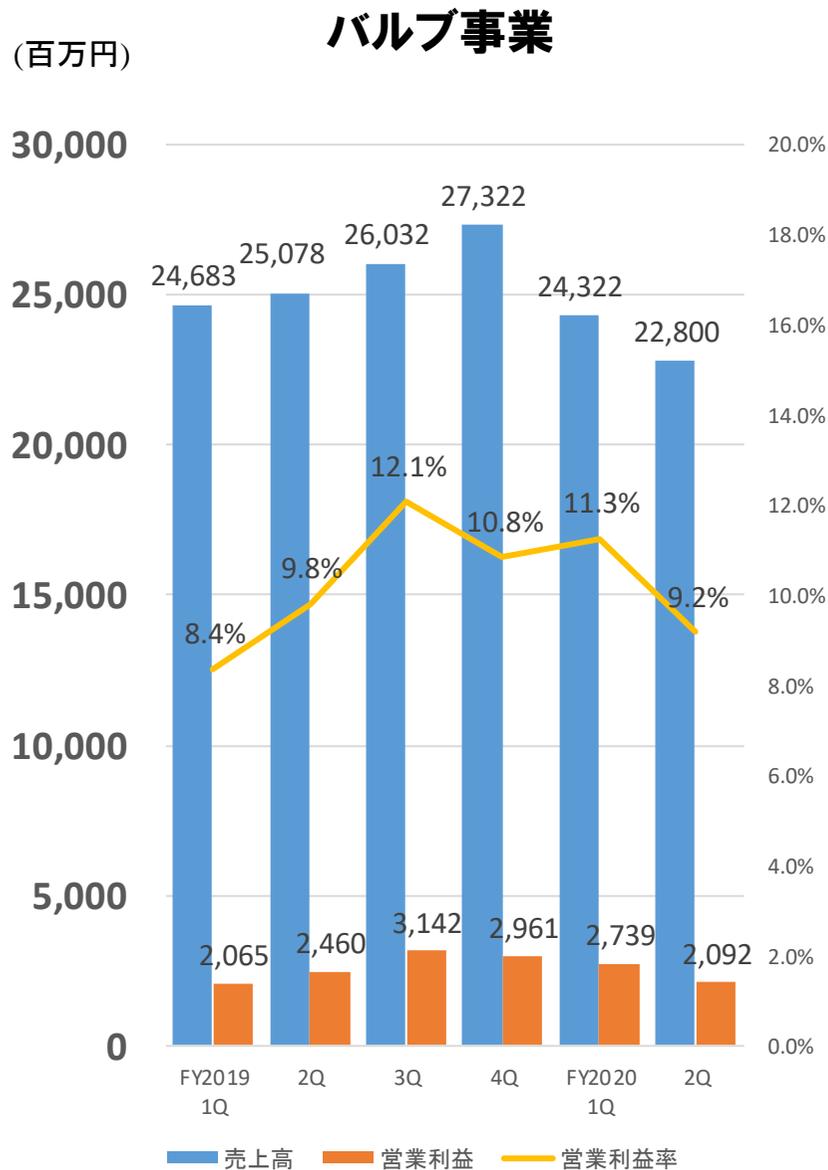
営業利益率



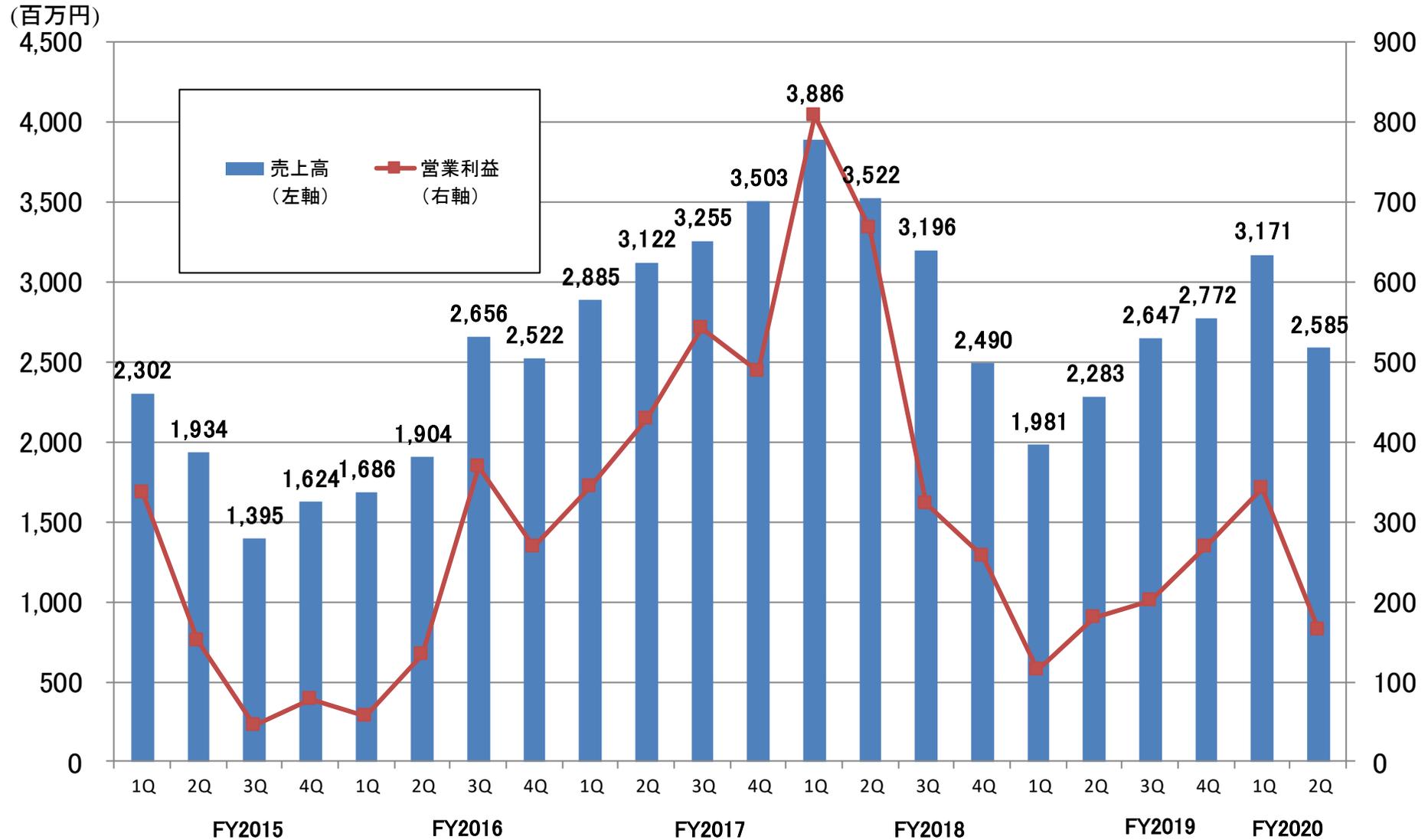
単位(百万円)

	2020年3月期				2020年12月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	30,879	31,319	31,884	33,007	28,745	27,053
営業利益	1,208	1,607	2,194	1,939	1,580	1,147
経常利益	1,210	1,523	2,108	2,399	1,363	1,076
親会社株主に帰属する 当期純利益	842	1,190	1,461	1,442	839	837
営業利益率	3.9%	5.1%	6.9%	5.9%	5.5%	4.2%

四半期業績推移(セグメント別)



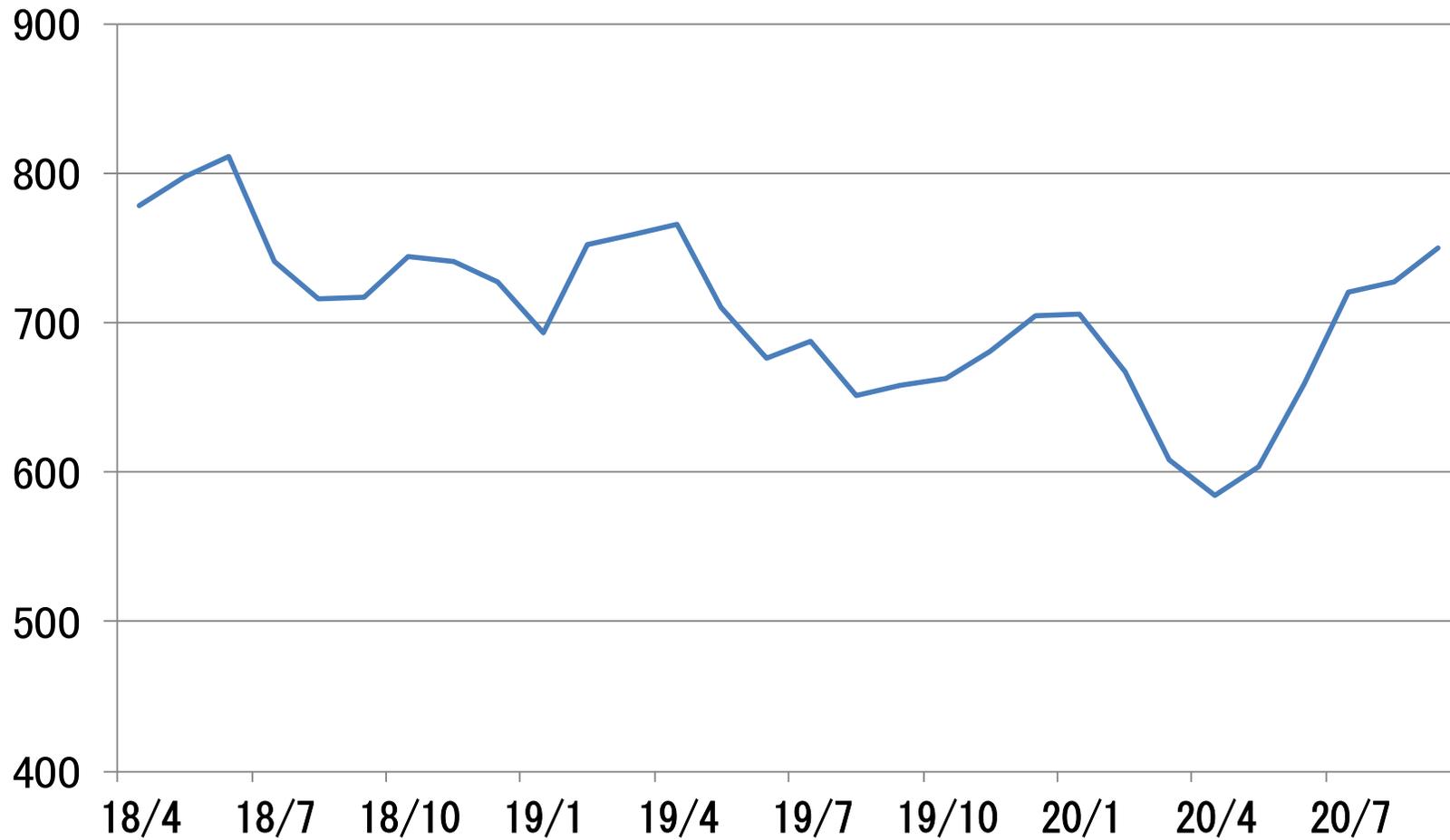
四半期業績推移(半導体向け)



- ・半導体向け製品を製造・販売する株式会社キッツエスシーティーの売上高・営業利益を四半期(3ヵ月)毎に表示。
- ・連結消去前のため、連結決算数値とは差異があります。

電気銅建値推移

(千円/ton)



原油価格推移

(USD/バレル)

